

京都市生物多様性プランの進捗について

1 京都市生物多様性プランの進行管理について

京都ならではの自然環境や伝統文化を後世に受け継いでいくため、目指すべき生物多様性保全の方向性を示す「京都市生物多様性プラン～生きもの・文化豊かな京都を未来へ～」(以下「プラン」という。)では、以下のとおり進行管理の考え方が示されている。

〔進捗管理〕

「2020(平成32)年度までに達成すべきこと」に向けて効果的に取組が進むよう、部会において、評価や進捗管理の手法について検討する。検討した内容に基づき、評価を行い、進捗管理を行う。

〔プランの見直し等〕

生物多様性の状況は、自然環境や社会情勢の変化に伴って変化する。順応的管理手法(PDCA)に基づき、評価、検討を行い、必要に応じて、プランの見直しを行うことにより、状況に応じたプランとし、プランに掲げる「あるべき姿」へと導く。

そのため、事業の評価や進捗管理の手法等について部会を中心に検討していただく必要があるが、当面は、プランの施策の方向性に沿ったリーディング事業を着実に推進し、指標設定のためのデータを蓄積していくこととしたい。

(評価及び進捗管理手法のイメージ)

- ・生物多様性に関する認知度(アンケート調査による)
- ・京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定件数
- ・自然観察会参加者数
- ・まちかど生きもの観察記応募件数
- ・京都市生物多様性保全活動登録制度の登録件数
- ・ホットスポットにおける生物種数

2 京都市生物多様性プランの取組状況について

プランの策定（平成26年3月）から現在までの取組状況について、リーディング事業を中心に報告する。

(1) 生きものの生息環境の保全

ア 京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度

京都の祭りや文化を支えてきた生きものの保全・再生のため、活動していただく団体の取組を認定し、必要に応じて技術的な支援のための専門家を派遣する「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」を創設し、推進している。創設以降、10件のプロジェクトを認定している（平成27年10月末現在）。

認定番号	プロジェクト推進者	取組内容	認定年度
1	京都水族館	チマキザサ及びフタバアオイを取り入れた展示	平成26年度
2	日新電機株式会社	生物多様性に配慮した緑地の新設・整備	平成26年度
3	特定非営利活動法人 K E S 環境機構	フタバアオイ及びフジバカマの保全（96事業所）	平成26年度
4	株式会社京都放送	自社敷地内で育てた原種のフジバカマの展示等	平成26年度
5	株式会社洛西ガーデン	自社敷地内の農園でのフタバアオイの保全	平成26年度
6	特定非営利活動法人 伏見クラブ	集合住宅内の緑地でのフタバアオイ等の保全	平成26年度
7	株式会社松栄堂	希少植物の育成・保護及び当該植物の店頭公開	平成26年度
8	松尾学区自治連合会	自治連合会管理の公園でのフタバアオイの保全	平成27年度
9	三菱自動車工業株式会社 パワートレイン製作所	自社敷地内でのフタバアオイ等の保全	平成27年度
10	特定非営利活動法人 K E S 環境機構	ヒオウギ及びキクタニギクの保全（35事業所）	平成27年度

(2) 理解し行動する市民の支援～人づくり～

ア 京の生きものホットスポット調査

市内の生物多様性保全上重要な場所（ホットスポット）において、活動団体等と連携し、生きものの生息状況のモニタリング調査を行っている。この調査に加え、市内の大学（京都精華大学、京都学園大学、京都大学（予定））と連携し、大学キャンパス内の緑地などに生息する生きものの調査を大学生の協力を得て実施している。

イ 親子生きもの探偵団

本市の生物多様性の保全に向けた行動の必要性を理解していただくための環境教育・普及啓発の一環として、親子を対象にした自然観察会「親子いきもの探偵団」を開催している。これまでに8回開催し、延べ307名が参加している。

平成26年度開催実績

	場所	参加者数
第1回	京都御苑	39名
第2回	深泥池	29名
第3回	野鳥の森・探鳥路～法然院森のセンター	38名

平成27年度開催実績

	場所	参加者数
第1回	京都水族館	47名
第2回	京都御苑	39名
第3回	洛西ニュータウン（小畑川、洛西竹林公園）	37名
第4回	京都市動物園	38名
第5回	桂川河川敷	40名

ウ 地域生きもの探偵団

生物多様性の大切さや豊かな地域の魅力を学ぶことを目的として、市内の小学校・児童館が授業等で実施する生きものの観察に、本市が専門家を派遣し、児童が多様な生きものたちのつながり等について学ぶことができる「地域生きもの探偵団」を実施している。これまでに4回開催し、197名の児童が参加している。

	場所	参加児童数
第1回（上賀茂小学校編）	上賀茂神社 ならの小川	82名
第2回（下京渉成小学校編）	東本願寺 渉成園	36名
第3回（境谷小学校編）	大蛇ヶ池公園	42名
第4回（境谷小学校編）	小畑川	37名

エ まちかどいきものマップ及びまちかど生きもの観察記

平成26年度は、子どもたちが、外に出て自然にふれ、色々な生きものに興味を持つきっかけとしていただくため、地域・学区等での身近な「まちかどいきものマップ」(家や学校の周辺等の生きものを見つけ地図上に表したもの)を募集し、92点の作品を応募いただき、特に優れている17点を表彰した。

平成27年度は、作品の形態を限定せず、絵画や観察日記など、応募者がより自由な作品作りに取り組めるようにした、「まちかど生きもの観察記」を新たに募集した(募集期間:平成27年7月1日~11月30日)。今後、受賞作品を決定し、表彰及び応募作品の展示を実施していく。

オ 京都生きもの100選

市内で四季折々に見られる生きもの等、身近な自然に関する情報197件から市民投票等により「京都生きもの100選」を選定し、広く市民等に生物多様性に触れる機会が増えるよう、更には100選の保全活動への参加につながるよう、取組を進めていく。

100選の選定に向けて、平成27年7月1日から9月30日まで、市民投票を実施し、その投票結果をもとに、生物多様性保全検討部会(平成27年11月4日開催)で御審議いただいた。現在、公開に向けた準備を行っている。

カ 普及啓発イベントの開催

市民や事業者等との共汗により、生物多様性保全活動の輪が広がることを目的とした「セミナー」の開催や、京都市の施策や事業等について担当部署の職員が出向いて説明を行う「京都市政出前トーク」のほか、「KESエコロジカルネットワーク参加団体説明会」などの外部主催の勉強会等も活用し、生物多様性保全のための普及啓発を積極的に推進している。

キ 普及啓発資料の発行

生物多様性保全について、広く市民や事業者に理解していただくため、普及啓発冊子及びチラシを発行している。

(3) 活動を促す仕組みとネットワークの構築~ネットワークづくり~

ア 京・生きものミュージアム~京都市生物多様性総合情報サイト~

生物多様性に関する様々な情報を収集・発信するとともに、市民、活動団体、事業者など多様な参加者を結び付ける役割を担う生物多様性専用ホームページ「京・生きものミュージアム~京都市生物多様性総合情報サイト~」を開設し、活用している。開設以降、12,349回(月平均1,029回)の閲覧があり、2,854件の生きもの発見報告が寄せられている(平成27年10月末現在)。

イ 京都市生物多様性保全活動登録制度

生物多様性保全活動に参加を希望する市民の皆様と、市民の皆様の協力を希望する保全活動団体を結び付ける、「京都市生物多様性保全活動登録制度」を創設し、運用している。登録の受付や制度の運用は、「京・生きものミュージアム」において行っている。31名の個人と9団体が登録されている（平成27年10月末現在）。

（参考2） 京都市における生物多様性保全に関する事業一覧